antileak newspaper

vol.03

2022 WINTER

アンティリーク通信

**中津市立
中津市民病院**

大分県北部、福岡京築地域の唯一の中核病院。
「病む人の身になって、安全で質の高い医療を提供し地域住民の拠りどころとなるよう努力します」という理念のもとで、大分県北の地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん医療を提供しています。

中津市立中津市民病院

https://www.city-nakatsu.jp/hospital/

CONTENTS

1 2 3 4 インタビュー　中津市立中津市民病院（大分県）

テーマ　アンティリークの導入と抗体カクテル療法への応用について

5 今回のインタビューのまとめ

Interview

アンティリークの導入と抗体カクテル療法への応用について

中津市立中津市民病院（大分県）× 株式会社コバヤシ

大分県北の基幹病院として、地域住民の健康と命を守る中津市立中津市民病院。職種間のしっかりとした連携体制を構築し、質の高い医療を提供しています。中でも薬剤科と看護部の結束力は強く、患者様への治療やケアに大きく生かされています。今回は、アンティリークを導入した経緯や、抗体カクテル療法へのアンティリークの活用についてお話をうかがいました。

インタビューおよび編集：有限会社エムリンク

今回取材に答えていただいた方々

上ノ段 友里 さん
Uenodan Yuri
薬剤科　主任薬剤師

伊藤 智子 さん
Ito Tomoko
看護部
がん化学療法看護
認定看護師

① アンティリークを知ったきっかけを教えてください。

上ノ段さん アンティリークとの出合いは2016年の日本医療薬学会です。展示ブースでたまたま見かけ、オートプライミングで側管が赤・白・黄と色分けされていてわかりやすく、抗がん薬の曝露防止に優れた器具だと感じました。当院では薬剤師が無菌調製を開始した2009年より抗がん薬の曝露対策に取り組んでいました。2011年からIVナース教育に薬剤師が加わるようになってからは看護師と薬剤師の関係が密接で、日頃から問題を共有していました。
ちょうどバックプライミングを看護師に任せるか否かについて院内で話し合っていた時期だったので、「良いものを見つけた！」と思いました。

2016年 日本医療薬学会
展示ブース

② アンティリーク導入前の抗がん薬投与の状況はどうでしたか。

伊藤さん 以前は普通の輸液セットをカスタマイズし、6セットを組み合わせて使っていたので複雑で、曝露対策も決して万全とは言えませんでした。また当院はレジメン数が300件近くあり、看護師がわかりやすいようにと、各レジメンに対して認定看護師と認定薬剤師が投与方法や副作用等を記した『ケモ看護シート』というツールを作っていました。しかし、レジメンが増えていくスピードにシート作成が追いつかず、現場からは「シートを見ても投与方法がわかりづらい」という声も上がっていました。

③ アンティリークを導入するまでにどのような苦労がありましたか。

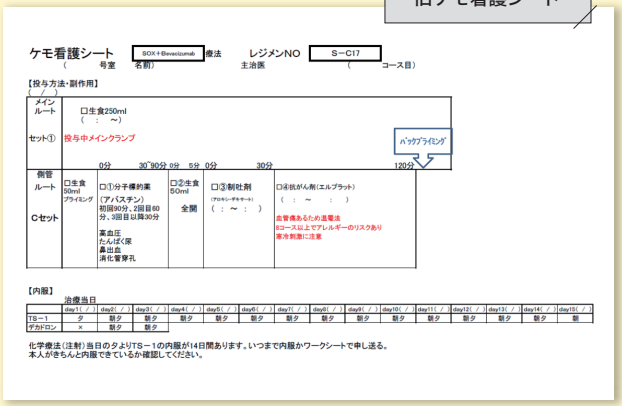
上ノ段さん 導入にあたっては院内でさまざまな調整が必要で、皆の混乱を招かないよう導入のタイミングも重要でした。2020年4月に全てのレジメンを見直すことになり、導入するならこの時期に合わせるのがベストだろうと、事前にサンプリングを実施。安全性の高さを実証し、院内での同意が得られ、導入に至りました。

④ アンティリークの導入にあたって工夫されたことはありますか。

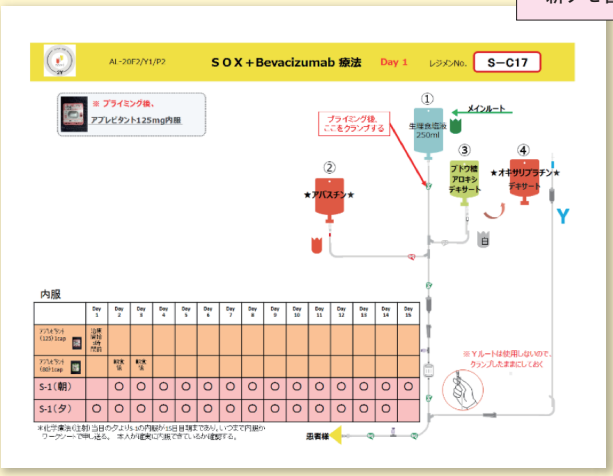
伊藤さん サンプリング時に看護師から「フィルターの位置が使いづらい」という声がありました。そこでコバヤシの担当者さんと話し合い、フィルターの位置を当院用にカスタマイズしてもらったことで、より使いやすくなりました。

上ノ段さん 輸液セットを2パターンに絞り、導入にあわせて**ケモ看護シート**も見直しました。選ぶべき輸液セットをマーク表示して識別しやすくし、内服薬や制吐剤の管理、副作用でアセスメントすべきことなども記しています。また、投与図も付記して見やすさを重視したことが、インシデント・アクシデント対策や看護師の負担軽減につながっていると思います。

旧ケモ看護シート

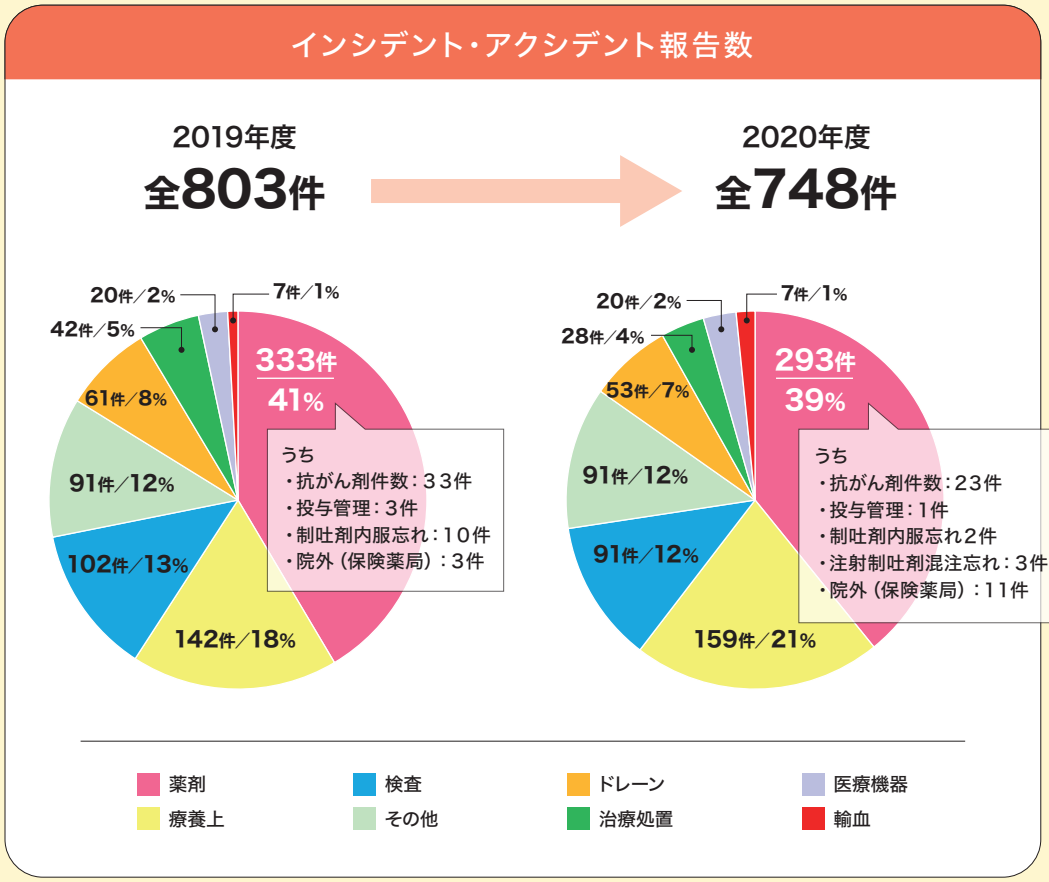


新ケモ看護シート



⑤ アンティリーク導入後にどんな変化がありましたか。

伊藤さん 導入して1年が経ちましたが、よかったという実感はすごくあります。確実に抗がん薬の投与に関するインシデント・アクシデントの報告数は減ってきました。ただ、アンティリークの扱いに慣れが生じてきたのか、少しずつ“自分ルール”ができて、基本操作が疎かになっているかもしれません。この問題に対しては、インシデントを再現した実地講習会をコバヤシの担当者さんと共同で開催してフォローしています。



セーフマスター®より

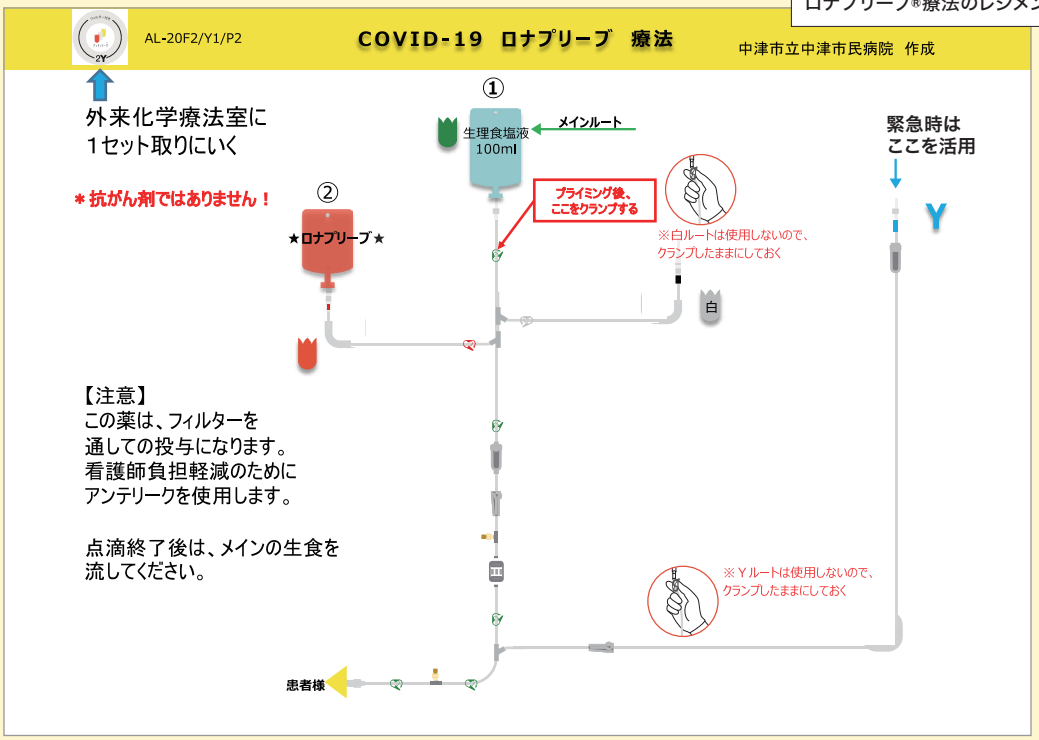
⑥ 貴院では新型コロナの抗体カクテル療法にアンティリークを応用されています。その経緯について教えてください。

上ノ段さん 抗体カクテル療法に使われるロナプリーブ®は、カシリビマブとイムデビマブを混合した治療薬です。マブという語尾がつく薬は抗がん薬に多いことから、ロナプリーブ®は抗がん薬に類似していると考え、「フィルターを通しての投与」という点からもアンティリークが使えるのではとひらめきました。ロナプリーブ®を投与するにあたり、危惧したのは副作用です。インフュージョンリアクションの発現率は0.2%と少ないですが、万が一の事態には万全に備えなければいけません。コロナ病棟では防護

ウラへ続く →

服を重ねて動きづらい環境下にあることも考慮し、看護師がもしもの時に冷静に対処できる、使い慣れた器具を使いたいと思いました。**ロナプリーブ®療法のレジメン**は抗がん薬のレジメンを組み立てる方法と同じでしたが、メインルートの生理食塩水はできる限りロスを避けたい思いから、50mlか100mlにするかで迷いました。これには看護師が「50mlだとオートプライミングするのに圧が足りず、100mlなら大丈夫」と教えてくれて100mlにしました。現在では、ゼビュディ®にも対応したレジメンを作成し、活用しています。

ロナプリーブ®療法のレジメン



7 実際に抗体カクテル療法でアンティリークを活用した感想を教えてください。

伊藤さん 当院では2021年10月末時点で、おおよそ30人の患者様に抗体カクテル療法を行いましたが、上ノ段さんのおかげで現場は混乱もなく、いつも通りに対応できました。副作用が起こった時も、抗がん薬の副作用への対処法と同じだと上ノ段さんから聞いていたので、戸惑うことはありませんでした。

上ノ段さん 今回、当院が抗体カクテル療法にアンティリークをスムーズに活用できたのは、1年間使用してきた経験があったことが大きかったと思います。私は非常時こそ普段通りの仕事ができることが一番大事だと考えています。新型コロナ治療は目まぐるしく変化し、新しい薬や治療法が急に取り入れられることもあります。その時、他の業務に追われてゆっくり準備する時間がない看護師たちは身構えてしまいます。でも、「いつもと一緒の方法でできるから大丈夫」と言われれば安心するでしょう。看護師の負担が軽減され、インシデントやアクシデントが減ることは、患者様にも病院にとっても良いこと。そのために薬剤師にできることがあれば協力したい気持ちは強く持っています。アンティリークの活用も広げていけたらいいですね。

今回のインタビューのまとめ

① アンティリークを知ったきっかけを教えてください。

出合いは2016年に行われた日本医療薬学会の展示ブースでした。オートプライミングで側管が赤・白・黄に色分けされている点に興味を持ち、抗がん薬の曝露防止に配慮された優れた器具だと感じました。

② アンティリーク導入前の抗がん薬投与の状況はどうでしたか。

普通の輸液セットをカスタマイズして使っていたので複雑で、曝露対策には不安がありました。また、投与方法などを記した当院オリジナルの『ケモ看護シート』を作成し、現場のフォローに努めていたものの、わかりづらいという声もありました。

③ アンティリークを導入するまでにどのような苦労がありましたか。

安全性確認のためのサンプリングを行うなど、事前準備を少しずつ進めました。院内の混乱をできるだけ避けるため、全レジメンを見直すタイミングに合わせ、2020年にアンティリークを導入しました。

④ アンティリークの導入にあたって工夫されたことはありますか。

現場の声をもとに使いやすさを追求し、フィルターの位置を当院用にカスタマイズしてもらいました。また、輸液セットを2パターンにしてケモ看護シートも見直し、投与方法は図解するなど、よりわかりやすさを重視しました。

⑤ アンティリーク導入後にどんな変化がありましたか。

抗がん薬投与に関するインシデント・アクシデントの報告数は明らかに減少しました。その一方で、器具の基本操作が疎かになってきている傾向も見られるため、講習会を開催し、再指導を行っています。

⑥ 貴院では新型コロナの抗体カクテル療法にアンティリークを応用されています。その経緯について教えてください。

抗体カクテル療法の治療薬と抗がん薬の性質および投与方法の類似点に着目し、アンティリークが応用できるのではと考えました。また、副作用が起こる可能性を鑑み、使い慣れた器具を使用する方が、現場の混乱を回避できるとも思いました。メインルートの生食量は、ロスを最小限にとどめ、オートプライミングに対応できる100mlにしました。

⑦ 実際に抗体カクテル療法でアンティリークを活用した感想を教えてください。

皆が扱いを周知しているアンティリークは、抗体カクテル療法へもスムーズに応用できました。その結果、トラブルや混乱もなく、第５波を乗り切れました。今回の事態を経験し、非常時こそ普段通りの業務が行えることの重要性を実感しました。

抗がん薬投与用
完全一体型輸液セット アンティリーク® とは

抗がん薬曝露対策が進んでいる欧州諸国内で一般的な、『漏らさないために外さない』という投与スタイルに、日本国内の医療体制事情を鑑み、『抗がん薬でプライミングを行わない』、『投与後の輸液バッグを外さない』、『投与手順の標準化を行える』製品を目指し開発しました。製品名の『antileak(アンティリーク)』は、英語の『anti(反対)』と『leak(漏れ)』から由来する造語であり、『一滴たりとも薬液を漏らさない安全な製品をお届けする』と言う弊社の決意表明でもあります。

販売元
株式会社コバヤシ
〒651-0084 兵庫県神戸市中央区磯辺通2丁目2番16号 三宮南ビル7階
TEL：078-414-8282　FAX：078-414-8281　https://www.kbjapan.co.jp

製造販売元
フォルテ グロウ メディカル 株式会社
〒327-0003 栃木県佐野市大橋町1647番地
http://www.fgm.co.jp

販売名：輸液セット
製品名：アンティリーク
一般的名称：自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット
医療機器承認番号：30300BZX00250000
クラス分類：管理医療機器

ALC3-2023.12.27